

「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」報告書（令和4年2月）

◇「公立高等学校の協働的な学びの確保に向けた方策」についての提言

＜提言＞

- (4) 各高等学校の切磋琢磨や、地域社会、各種団体等との連携を通じて、生徒の可能性を広げることにつながる魅力ある協働的な学びを創出していくことを期待したい。
- (5) 部活動や学校行事等、同じ空間で時間を共にすることを通じた生徒同士の関わり合いが協働的な学びの基本となる。必要な教職員数を維持し、学校の活力や多様性を確保するためには、一定の学校規模を確保することが望ましい。
- (6) 将来的な生徒数の減少、とりわけ地域ごとの生徒数の減少状況を見据えて、再編統合による高等学校の特色化・魅力化を図る視点も必要である。また、適正配置、再編統合の方針等を検討する際には、地域振興の核としての高等学校の役割や地元地域等に与える影響を考慮し、様々な意見を聞いて進める必要がある。

＜考え方及び留意事項－提言(4)について－＞

- スクール・ミッション、スクール・ポリシーのもと、各高等学校独自の特色や魅力を持った協働的な学びを創出する必要がある。
- ICTの活用や学校行事等を通じた各高等学校の連携によって、協働的な学びを展開していくことを期待したい。
- 地域や各種団体、企業、同窓会の先輩等、学校外の方々と関わる機会を創出し、様々な考え方や価値観に触れ、生徒の可能性を広げてもらいたい。

＜考え方及び留意事項－提言(5)について－＞

- 学校が小規模化することで、必要な教職員数の確保が困難になるなど、学校の活力・多様性が低下し、協働的な学びの機会の確保が困難になることが懸念されるため、教職員数及び生徒数を一定数維持する必要がある。
- 部活動については、集団で活動する部活動を含め、一定数以上の部活動が維持できる学校規模が望ましい。

＜考え方及び留意事項－提言(6)について－＞

- 協働的な学びを確保し、各高等学校の特色化・魅力化を推進するためには、将来的な生徒数の減少、とりわけ地域ごとの生徒数の減少状況を見据えて、様々な意見を聞いた上で高等学校の適正配置や再編統合を考える必要がある。
- これまでの本県高等学校の再編統合が主に専門高校・専門学科を中心に行われたことや、全県的な高等学校の配置等の観点から、普通科を中心とした再編統合について検討する必要がある。
- 多様な学びに対するニーズへの対応及び全県的な配置の観点から、定時制課程や通信制課程の高等学校の適正配置等について検討する必要がある。
- 高等学校の適正配置や再編統合を考える際には、スクールバスの運行等について検討する必要がある。